



中村俊定文庫  
文庫 18  
959





的傳為乃日許解抄







みづ日註解



本か〜世々行舟は御の御也

尾張の國小竹村ト云る所奇の所也人々  
困る者逸る是より船乗りも世々けし  
たとりし事誠不圖思ひ切ると考文  
あり翁も牛牛に似るる名子と野水  
云う事を移授る句也

寺おやとハハおはるる山系花  
をりおてんるれさ母お利はるる山系花



ハ竹井ありは山系花を益す本家  
ハ一ヶ古事と云限中は是く有り

有ゆえ主なる酒屋造くせし

山系花子志と云と湯をと樽一所有り  
みゆゆえぬことハ水司物ナリ上より  
ハ秋新酒も来時ハ軒下北竹を  
又るを造りし時を新山系花子  
ナリけ水とハ天子子御酒造家者と  
見し所ナリ

かハ酒の味をふるまふありし  
是ハ酒の味をふるまふありし  
是ハ酒の味をふるまふありし

はるはるの酒をふるまふありし

朝鮮よりはるはるの酒をふるまふありし

頭の花をふるまふありし

海より朝鮮の酒をふるまふありし

日のちりしに酒をふるまふありし

水も酒もふるまふありし

我々酒をふるまふありし  
そのまじりに酒をふるまふありし



新夕に遊ばるゝ遊ばるゝとて海にわたる遊ばるゝ

遊ばるゝ遊ばるゝ遊ばるゝ遊ばるゝ

遊ぶと女探と遊ばるゝ遊ばるゝ遊ばるゝ遊ばるゝ

遊ばるゝ遊ばるゝ遊ばるゝ遊ばるゝ

遊ばるゝ遊ばるゝ遊ばるゝ遊ばるゝ

遊ぶと遊ぶと遊ぶと遊ぶと遊ぶと遊ぶと

遊ぶと遊ぶと遊ぶと遊ぶと遊ぶと遊ぶと

遊ぶと遊ぶと遊ぶと遊ぶと遊ぶと遊ぶと

遊ぶと遊ぶと遊ぶと遊ぶと遊ぶと遊ぶと

遊ぶと遊ぶと遊ぶと遊ぶと遊ぶと遊ぶと

遊ぶと遊ぶと遊ぶと遊ぶと遊ぶと遊ぶと

遊ぶと遊ぶと遊ぶと遊ぶと遊ぶと遊ぶと

遊ぶと遊ぶと遊ぶと遊ぶと遊ぶと遊ぶと

遊ぶと遊ぶと遊ぶと遊ぶと遊ぶと遊ぶと

遊ぶと遊ぶと遊ぶと遊ぶと遊ぶと遊ぶと

遊ぶと遊ぶと遊ぶと遊ぶと遊ぶと遊ぶと

遊ぶと遊ぶと遊ぶと遊ぶと遊ぶと遊ぶと



雲に女引く人もちんせう

あか柳をうきさきとて舟にまかせし

いふのがうきさき

たそふれを横に流る日春を

あの人海をよめることて

とねりうきさき

あか柳をうきさきとて舟にまかせし

いふのがうきさき

二の尾小道橋のむすめ

あか柳をうきさきとて舟にまかせし

あか柳をうきさきとて舟にまかせし

あか柳をうきさきとて舟にまかせし

あか柳をうきさきとて舟にまかせし

蝶をむくこと

あか柳をうきさきとて舟にまかせし

あか柳をうきさきとて舟にまかせし

あか柳をうきさきとて舟にまかせし



宗一の宗慶遠近おぼけりしる

此處お白きうしそまへににおかして

今そ眼のまをいぶりて

お白きうしそまへににおかして

お白きうしそまへににおかして

お白きうしそまへににおかして

おまへに社念のねれおぼえて

お白きうしそまへににおかして

宗慶長公紀

宗一宗慶うしそまへににおかして

宗慶を連袂して英徳國へ参りて

お白きうしそまへににおかして

おまへに社念のねれおぼえて

お白きうしそまへににおかして

お白きうしそまへににおかして

おまへに社念のねれおぼえて



は海を舟とてしむものも舟とて舟と

ちりししと舟とて舟とて舟と

舟とて舟とて舟とて舟とて舟と

馬賊とて舟とて舟と

舟とて舟とて舟とて舟とて舟と  
舟とて舟とて舟とて舟とて舟と  
舟とて舟とて舟とて舟とて舟と  
舟とて舟とて舟とて舟とて舟と  
舟とて舟とて舟とて舟とて舟と

舟とて舟とて舟とて舟とて舟と  
舟とて舟とて舟とて舟とて舟と  
舟とて舟とて舟とて舟とて舟と  
舟とて舟とて舟とて舟とて舟と  
舟とて舟とて舟とて舟とて舟と

舟とて舟とて舟とて舟と

舟とて舟とて舟とて舟とて舟と  
舟とて舟とて舟とて舟とて舟と  
舟とて舟とて舟とて舟とて舟と  
舟とて舟とて舟とて舟とて舟と  
舟とて舟とて舟とて舟とて舟と

舟とて舟とて舟とて舟と

舟とて舟とて舟とて舟とて舟と  
舟とて舟とて舟とて舟とて舟と  
舟とて舟とて舟とて舟とて舟と  
舟とて舟とて舟とて舟とて舟と  
舟とて舟とて舟とて舟とて舟と



又天文家子るをん刻や牛と  
さうらひもも

日東より赤白の坊より

赤白一丈請ふるまると  
のあ

巾ふくは

びらうらびは所と月との  
を

年の波

中西九列を  
はあ

かに

の

我ら

の

コノシロ  
の  
ナカフリ

コノシロ



きつと妹乃まのりさしよ

懐念もれはまのりさしよ  
懐念もれはまのりさしよ  
懐念もれはまのりさしよ

従ひて長湯ふ志更らむ海を

まのりさしよのりさしよ  
まのりさしよのりさしよ

廊下を差ちかけつゝ  
その節は海を

### 壮年未ふ不振

初より今も年も替りて

初より今も年も替りて  
初より今も年も替りて  
初より今も年も替りて

初より今も年も替りて

初より今も年も替りて



朝ふかりり〜とふむせうしちち〜も菊の葉は

中々おもしろくはらば披露うるおぬえ

眼のふりり〜とふれい〜秋まよ〜とふん〜とふり  
白くまを舞ふ秋白くまを〜とふり〜とふり〜とふり  
〜とふり〜とふり〜とふり〜とふり

う〜とふれ〜とふり車いよ〜とふり  
披露うるわの節〜とふり〜とふり〜とふり

麻呂の月袖に昔歌〜とふり〜とふり

おのれ〜とふり〜とふり〜とふり〜とふり  
〜とふり〜とふり〜とふり〜とふり

桃の〜とふり〜とふり〜とふり

貞徳別号〜とふり〜とふり〜とふり〜とふり  
〜とふり〜とふり〜とふり〜とふり〜とふり  
〜とふり〜とふり〜とふり〜とふり〜とふり  
〜とふり〜とふり〜とふり〜とふり〜とふり

雨の〜とふり〜とふり〜とふり〜とふり



貞は清き心をもて田畑を勤め自ら徳を  
修め人々を足るを求むるを志す古事

たこのまへにけりていさよのまへに

此は清き心をもて田畑を

まをすけりて清れにいとさよのまへ

たこのまへにけりていさよのまへに  
まをすけりて清れにいとさよのまへ  
まをすけりて清れにいとさよのまへ

まをすけりて清れにいとさよのまへ

まをすけりて清れにいとさよのまへ  
まをすけりて清れにいとさよのまへ

まをすけりて清れにいとさよのまへ

まをすけりて清れにいとさよのまへ

まをすけりて清れにいとさよのまへ

まをすけりて清れにいとさよのまへ  
まをすけりて清れにいとさよのまへ



ふらふらにのぼるるもさしづら

ふらふらにのぼるるもさしづら  
はらふらにのぼるるもさしづら  
はらふらにのぼるるもさしづら  
はらふらにのぼるるもさしづら  
はらふらにのぼるるもさしづら  
はらふらにのぼるるもさしづら  
はらふらにのぼるるもさしづら  
はらふらにのぼるるもさしづら

日とせうれお丹ちかき人

おふとせうれのほおきん<sup>お</sup>ちかき人  
おふとせうれのほおきん<sup>お</sup>ちかき人  
おふとせうれのほおきん<sup>お</sup>ちかき人  
おふとせうれのほおきん<sup>お</sup>ちかき人

福あいのさうりも神もおきん

お丹<sup>お</sup>ちかき人  
お丹<sup>お</sup>ちかき人  
お丹<sup>お</sup>ちかき人  
お丹<sup>お</sup>ちかき人

おらうりの地おら

おらうりの地おら  
おらうりの地おら  
おらうりの地おら  
おらうりの地おら  
おらうりの地おら  
おらうりの地おら  
おらうりの地おら  
おらうりの地おら

福あいのさうりも神もおきん

おらうりの地おら  
おらうりの地おら  
おらうりの地おら  
おらうりの地おら  
おらうりの地おら  
おらうりの地おら  
おらうりの地おら  
おらうりの地おら



ふらふら〜のよきそよひ

ふれぬ娘よぬき〜りふせら〜く大層

掃箒よ舞をむのぢもふのふらふら

はげをばいし〜よりの女中〜

〜の女中〜

〜

夢をすめぬのぢ〜

細〜

縁を〜

おのぢ〜

と縁〜

不徳の實を徳とす〜

〜

道〜

と縁〜



~~~~~の~~~~~

~~~~~の~~~~~

~~~~~の~~~~~

~~~~~の~~~~~

~~~~~の~~~~~

~~~~~の~~~~~

~~~~~の~~~~~

~~~~~の~~~~~

~~~~~の~~~~~

~~~~~の~~~~~

~~~~~の~~~~~

~~~~~の~~~~~

~~~~~の~~~~~



忠をぬきぬい原・爾をいふ

徳はまをて意白と徳ふ意に華の素をぬく人  
あまの人もゆつに佛法の心をあをてあま  
るへ口んまをてあまの原・爾をいふ

秋蟬ちと虚の志をいへて

是は釋家ち同答とていへ

藤のあまはいふ

あまの形をいふもの

あまの志をいふもの

被りて

あまの志をいふもの

いとりの女侍の房の内侍

被りて

この日のあま











芳妻とては〜後妻とては

ふ〜のちやうは〜茶のたまり

朝も夜も双とてはの旅を候〜

ふ〜のちやうは〜ぬ〜

お花堂とては〜お〜

その人〜

思ふ〜のちやうは〜

おきよとては〜女は〜

妾婦のた〜

お白やとては〜女の志は〜

能〜

お〜のちやうは〜

お〜のちやうは〜

能〜

佛〜のちやうは〜



大町の政よ大町のよし〜あえむ〜  
とらあに藤よるふん信那の作体と有〜  
縣ちるむと入江〜作らむ〜

のふなよとて〜  
と〜

又般ま〜む〜  
又般ま〜む〜

その人〜  
その人〜

くま〜に〜  
くま〜に〜

その〜  
その〜

おん〜  
おん〜

か〜  
か〜

おん〜  
おん〜

の〜  
の〜

ふ〜  
ふ〜



~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

舞子の集楽の舞舞の舞舞の舞舞

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

舞日の舞舞の舞舞の舞舞の舞舞

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

舞日の舞舞の舞舞の舞舞の舞舞

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

舞日の舞舞の舞舞の舞舞の舞舞

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

舞日の舞舞の舞舞の舞舞の舞舞



此のいふは、  
世のいふは、  
世のいふは、

世のいふは、  
世のいふは、  
世のいふは、

世のいふは、  
世のいふは、  
世のいふは、

世のいふは、  
世のいふは、  
世のいふは、

世のいふは、  
世のいふは、  
世のいふは、

世のいふは、  
世のいふは、  
世のいふは、

世のいふは、  
世のいふは、  
世のいふは、

世のいふは、  
世のいふは、  
世のいふは、

世のいふは、  
世のいふは、  
世のいふは、

世のいふは、  
世のいふは、  
世のいふは、

世のいふは、  
世のいふは、  
世のいふは、



おのひのひとあつちうちうち

おのひのひとあつちうちうち  
おのひのひとあつちうちうち  
おのひのひとあつちうちうち

おのひのひとあつちうちうち

おのひのひとあつちうちうち  
おのひのひとあつちうちうち  
おのひのひとあつちうちうち

おのひのひとあつちうちうち

おのひのひとあつちうちうち  
おのひのひとあつちうちうち  
おのひのひとあつちうちうち  
おのひのひとあつちうちうち  
おのひのひとあつちうちうち

おのひのひとあつちうちうち

おのひのひとあつちうちうち

おのひのひとあつちうちうち  
おのひのひとあつちうちうち  
おのひのひとあつちうちうち

おのひのひとあつちうちうち

おのひのひとあつちうちうち  
おのひのひとあつちうちうち  
おのひのひとあつちうちうち

おのひのひとあつちうちうち



おつらふいしーるーなせむとけいんーちんかんあまのり  
かんとそとて帰るーとての字の流しーあまのり

鶴ころのまじりのかろくはるたなり

まじりーあまのりーあまのりーあまのりーあまのり  
あまのりーあまのりーあまのりーあまのり

風ふらぬ日籠りー酒ちせり日

あまのりーあまのりーあまのりーあまのり  
あまのり

あまのりーあまのりーあまのり

あまのりーあまのりーあまのり

あまのりーあまのりーあまのり

あまのりーあまのりーあまのり  
あまのりーあまのりーあまのり

あまのりーあまのりーあまのり

あまのりーあまのりーあまのり



あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心



かりて梅のいそよふ時分の附え本にのりて  
法印士あまのいそよふるまにあふにこそ

あふのりて梅のいそよふるまにあふにこそ

本にのりて梅のいそよふるまにあふにこそ

あふのりて梅のいそよふるまにあふにこそ

あふのりて梅のいそよふるまにあふにこそ

あふのりて梅のいそよふるまにあふにこそ

あふのりて梅のいそよふるまにあふにこそ

白燕湯しらつばねゆのいそよふるまにあふにこそ

あふのりて梅のいそよふるまにあふにこそ

宣旨のりのいそよふるまにあふにこそ

あふのりて梅のいそよふるまにあふにこそ

あふのりて梅のいそよふるまにあふにこそ

八十年のいそよふるまにあふにこそ

あふのりて梅のいそよふるまにあふにこそ

あふのりて梅のいそよふるまにあふにこそ



たゞしつらき世のせりのし

半平のうらみとては

西の南に控ちての法

の

蘭の海よ下れ

の

街の

蘭の地志ある如く

為箱の

の

の

の

は

の



京の白く西へ一程路の意をたて

かよふに道はしづかにしに静かきうららかに  
あそびの心もあはれに

あはれにうららかに

あはれにうららかに  
あはれにうららかに

あはれにうららかに

あはれにうららかに  
あはれにうららかに

あはれにうららかに

あはれにうららかに

あはれにうららかに

あはれにうららかに  
あはれにうららかに

あはれにうららかに

あはれにうららかに  
あはれにうららかに

あはれにうららかに

あはれにうららかに  
あはれにうららかに



心驚くればさうかまらぬと云ふ

さうかまらぬと云ふは心驚くればさうかまらぬと云ふ

由家歌

箱の口もはなはなと云ふ

箱の口もはなはなと云ふ

あつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつち

はなをてん尾張又次郎と云ふ  
はなをてん尾張又次郎と云ふ  
はなをてん尾張又次郎と云ふ

櫻橋山家の侍と云ふ

はなをてん尾張又次郎と云ふ  
はなをてん尾張又次郎と云ふ  
はなをてん尾張又次郎と云ふ

はなをてん尾張又次郎と云ふ  
はなをてん尾張又次郎と云ふ  
はなをてん尾張又次郎と云ふ







短歌集の巻子の女の人

東海の小舟の女の人  
昔の女の人

夜よ女の人

おとよの女の人  
おとよの女の人  
おとよの女の人

夏ふきの山持の女の人

夏ふきの山持の女の人  
夏ふきの山持の女の人

麻ふきの山持の女の人

おとよの女の人  
おとよの女の人

おとよの女の人

おとよの女の人  
おとよの女の人

おとよの女の人

おとよの女の人  
おとよの女の人  
おとよの女の人

おとよの女の人



おはらけのうららかなるに  
あつたてのうららかなるに  
あつたてのうららかなるに

あつたてのうららかなるに

あつたてのうららかなるに

あつたてのうららかなるに

あつたてのうららかなるに

あつたてのうららかなるに

あつたてのうららかなるに

あつたてのうららかなるに

あつたてのうららかなるに

あつたてのうららかなるに

あつたてのうららかなるに

あつたてのうららかなるに

あつたてのうららかなるに

あつたてのうららかなるに

あつたてのうららかなるに

あつたてのうららかなるに



昔をまにに山國つゝ白

ふしむのふしむのふしむ

女のおもひよきいふはな

あふもくはなをみよみよ

あふのふしむのふしむ

あふのふしむのふしむ

あふのふしむのふしむ

あふのふしむのふしむ

あふのふしむのふしむ

あふのふしむのふしむ

あふのふしむのふしむ

あふのふしむのふしむ

あふのふしむのふしむ

あふのふしむのふしむ

あふのふしむのふしむ

あふのふしむのふしむ

あふのふしむのふしむ

あふのふしむのふしむ



深井より之改<sup>十一</sup>ハ 誠<sup>之</sup>ヲ 修<sup>ノ</sup>ル 事<sup>ハ</sup> 伯母<sup>ハ</sup>  
之改<sup>レ</sup> 法<sup>ニ</sup> 原<sup>ル</sup> 事<sup>ニ</sup> 旅<sup>ス</sup> 事<sup>ニ</sup> 事<sup>ハ</sup> 時<sup>ニ</sup> 多<sup>ク</sup> 事<sup>ハ</sup> あり 女<sup>ハ</sup> 孫<sup>ハ</sup>  
之改<sup>レ</sup> 事<sup>ニ</sup> 旅<sup>ス</sup> 事<sup>ニ</sup> 旅<sup>ス</sup> 事<sup>ハ</sup> あり 旅<sup>ス</sup> 事<sup>ハ</sup> あり

伏見こわ<sup>レ</sup> 事<sup>ハ</sup> 加<sup>ヘ</sup> 事<sup>ハ</sup> 旅<sup>ス</sup> 事<sup>ハ</sup> あり

伏見本橋<sup>ハ</sup> 深<sup>ク</sup> 事<sup>ハ</sup> あり 事<sup>ハ</sup> あり 事<sup>ハ</sup> あり 事<sup>ハ</sup> あり 事<sup>ハ</sup> あり

色深<sup>ク</sup> 事<sup>ハ</sup> あり 猫<sup>ハ</sup> 事<sup>ハ</sup> あり 事<sup>ハ</sup> あり 事<sup>ハ</sup> あり

花<sup>ハ</sup> 事<sup>ハ</sup> あり 事<sup>ハ</sup> あり 事<sup>ハ</sup> あり 事<sup>ハ</sup> あり 事<sup>ハ</sup> あり  
事<sup>ハ</sup> あり 事<sup>ハ</sup> あり 事<sup>ハ</sup> あり 事<sup>ハ</sup> あり 事<sup>ハ</sup> あり  
事<sup>ハ</sup> あり 事<sup>ハ</sup> あり 事<sup>ハ</sup> あり 事<sup>ハ</sup> あり 事<sup>ハ</sup> あり

猫<sup>ハ</sup> 事<sup>ハ</sup> あり 事<sup>ハ</sup> あり 事<sup>ハ</sup> あり 事<sup>ハ</sup> あり 事<sup>ハ</sup> あり

水<sup>ハ</sup> 事<sup>ハ</sup> あり 事<sup>ハ</sup> あり 事<sup>ハ</sup> あり 事<sup>ハ</sup> あり 事<sup>ハ</sup> あり

事<sup>ハ</sup> あり 事<sup>ハ</sup> あり 事<sup>ハ</sup> あり 事<sup>ハ</sup> あり 事<sup>ハ</sup> あり 事<sup>ハ</sup> あり

山<sup>ハ</sup> 事<sup>ハ</sup> あり 事<sup>ハ</sup> あり 事<sup>ハ</sup> あり 事<sup>ハ</sup> あり 事<sup>ハ</sup> あり

事<sup>ハ</sup> あり 事<sup>ハ</sup> あり 事<sup>ハ</sup> あり 事<sup>ハ</sup> あり 事<sup>ハ</sup> あり 事<sup>ハ</sup> あり

道加



山うたんを心冠面牛をう川を

あまきつひー降こ牛ふあるた利

杉ゆふあぶ家枯もろく松

こま物利たるをあるとハ枯枝あ

あり免順あささるた利

木織新下る子松あ茶せん

十あさる茶せんかこさ新はま

松筆<sup>ヤサ</sup>まをやんは箱あ

木織新さる大塔るま松る面新た利

松平一松うわん月を海

あ白ち松なる有さるゆ子と利も平松を  
松をさるんゆした利

下りに楊成まか出波阜一山

こま物利ままかハまかハんさる  
波阜山ハ波成ままは信長う旧跡ある

そのの月あま色たる色白月所るるか

地之他まあ家るるか

地まをさるん



GANSHODO SHOTEN  
KANDA TOKYO  
店書室松巖

巖松室書  
藏書之印

印

印



